

電気通信大学 2025 年春期 語学留学報告書

所属・学年:II 類・3 年 田中大偉翔
留学先大学名:FPT University

留学先国名:ベトナム

1. 参加の動機

私がこのプログラムに参加しようと考えた契機は、単に旅行のみならず、たくさんの人と関わることによってより充実した海外渡航の経験を積みたかったことと、何事にもチャレンジするという自らの目標を達成したかったからです。また、特に留学先としてベトナムを選択したのは、英語を学ぶのに、英語圏ではない国を選ぶ。という一見矛盾した選択ですが、現地で出会う学生も、英語を「勉強して身につけた」人たちなので、非母語としての英語話者への理解がより一層深く、また、英語話者の人数も少ないので、ある程度狭く深くの関係性を築けるのではないかと考えたからです。実際に、授業やフリータイムなど、たくさん英語を使ってコミュニケーションを取る機会が多かったですが、丁寧で綺麗な発音であったり、学校教育でしか英語を習ってこなかった私にはすごく易しい英語に感じ、抵抗感なくコミュニケーションが取れたと感じています。

2. 授業、アクティビティについて

平日は午前 9 時から午後 4 時半頃まで大学で活動をしました。午前は英語で行われる講義に参加し、中学高校レベルの文法事項や、週に 3,4 回のスピーチなどを行いました。やることや課題の量が多いが、難易度は比較的優しめで、とにかく発話するということにフォーカスした講義でした。また、午後のアクティビティでは、ベトナム人の方や、フィリピン・タイ・ブルネイなどからインターンで来ている方々がホストをし、グループワークを中心に交流を行いました。アクティビティの内容としては、工作をしたり、劇をしたり、街中に行ってインタビューをしたりなど、非常に楽しいものが多く、毎回違うグループを組むグループワークなので、会話も弾みました。

主に日本の留学生向けに用意されたプログラムだということもあり、クラスの参加者は大半が日本人の生徒でしたが、インターンで来ている外国人やベトナム人のバディも授業やアクティビティに加わり、積極的にコミュニケーションを取ることで親密になり、一緒に食堂でランチを食べたり、フリータイムも一緒に街中に行ったりするような仲になるきっかけの交流の場にもなりました。

3. 自由時間での活動について

放課後には現地でできた友人と頻繁に夕食を食べに行ったり、市場に出かけたりしました。大学が用意してくれた市内のツアーでは、様々な場所を回ったり、料理教室や伝統的な帽子の絵付けなど、アクティビティも充実していました。また、週末には、少し遠出をしてフエという歴史的な街並みの場所(すごくお勧めです。)に行ったりと、毎日充実した生活でした。

特に記憶に残っていることとしては、大学の昼休みの時間に、たまたまコートでサッカーをしていた附属高校の高校生たちと一緒にサッカーをしたことです。言葉も通じないけれど、裸足で駆け回って仲良くなるという、時に言語以上のコミュニケーションにも感じられるような体験をしました。また、現地で出会った日本人の仲間に関しても、留学が終わった後にも日本で遊んだり、たくさんの交流をしているので、それもひとつ自分にとっては大きい出来事だったなというふうに感じています。



みんなでサッカー：裸足でやったので足の皮が剥けました(笑)、オレンジ色の服の子達は現地の高校生です。

4. ホームステイや生活一般について

ホームステイはプログラム通して一泊のみだったので、想像より外に出かけている時間が多かったです。ホストファミリーが山をお勧めしてくれ、一緒にそこへ行きました。

日常生活については、私にはすごくマッチしました。食生活は野菜や魚、肉、フルーツと多様で、香料や香草はとても美味しかったです。パクチーやミントなどが特に多かったが、よく出てくるので苦手な人は大変そうだと感じます。また、夜市などに行けば、カエルの肉や、普通のお店でも鳩(翻訳する限りでは)の肉、血液をコラーゲンで固めたようなものなど、日本では馴染みのないものをたくさん食べることができました。物価は安く、市場などでは bargaining(値下げ交渉)なんかもできるので、そこも含めて文化の違いを感じることができてとても興味深かったです。また、治安に関しては、街中を歩いていて危険は感じられませんでした。道の舗装や街灯など、もちろん日本に比べると見劣りしますが、それでも最低限の治安はしっかりと確保されていて、不自由や不安は特にありませんでした。



夜市の様子：虫の形のグミや、カエルの丸焼き、ココナッツなど、異国情緒満載！！ 右の写真はベトナム式のピザ。



街が一望できる山からの景色:ホームステイ先の方に連れて行ってもらいました。見晴らしも最高でした。

5. 今回の留学を通じて得たこと

語学について、特に授業で学んだ「スピーチ」という点で非常に力がついたかなと感じています。例えば、「read the room」と言って、自分の話していることがオーディエンスに伝わっているかをしっかり確認して、伝わっていないければ補足をしなければならないということを、英語でのスピーチ中でもより意識してできるようになりました。「Be confident」という点に非常に注力して授業が進んでいくので、その過程で、一方通行のスピーチではなく、より利き手に寄り添ったスピーチの重要性を学ぶことができました。

また、私が今回の留学で身をもって感じたのは、「Just trying is the only entrance of communication」ということです。日本語にせよ英語にせよ、私にとっては大学で学んでいるフランス語にせよ、兎にも角にもまずは「その国の言葉で話してみる」ということがとても重要なのだと再確認できました。私はこの留学の後にフランスに旅行で行ったのですが、もしこの経験がなければ「Je ne parler pas française(フランス語できません)」と言って英語で喋っていたと思いますが、実際には「Je peux parler un peu française(フランス語が少しできます)」と、その国の言葉を使ってコミュニケーションにチャレンジすることができました。実際にその国に行ってみて、聞いて、話して、という、そのプロセスでしか得られないものがあって、そしてそれは他でもなく「やってみる」というところからはじめるのだと、強く感じました。

6. 今後の抱負

プログラムを通して、外国語に対する自分の向き合い方は明らかに変わりました。今後は、この情熱を絶やさないように、そして、さらに精力的に取り組んでいけるように、注力していきたいです。それは、もちろん英語を使うこと、私は第二外国語のフランス語もより一層学ぶこと、その両方で、さらにたくさんの人とのコミュニケーションを取りたいと感じています。また、海外旅行などでも、行く国行く国に対しての異文化理解をより大切にしたいなというふうに感じました。

また、語学面以外にも、このプログラムを通して変化した自らの対外的なマインドを活かして、今後はグループやチームの円滑なコミュニケーション、あるいはリーダーシップのような部分も強みとして十分に発揮していきたいと思っています。



FPT 大学の正門前: アクティビティで撮った写真です。Thank you for 3 weeks ~!!!

7. 参加希望者へのアドバイス

語学面で心配のある人は、特にベトナムは良いと思います！英語が話せることが当たり前じゃない国(ベトナム語しか話せない人も多い)なので、大学内は皆が英語を「勉強している」仲間たちで、高め合えると思います。また、英語が通じない街中でも、実は言葉が通じなくても、ジェスチャーなどで欲しいものは大体手に入ります。そう言った意味で、もちろんのこと英語を学びながら、それ以上に英語、もっと広く言えばコミュニケーションに向き合う自分の考え方を強くできると思います！